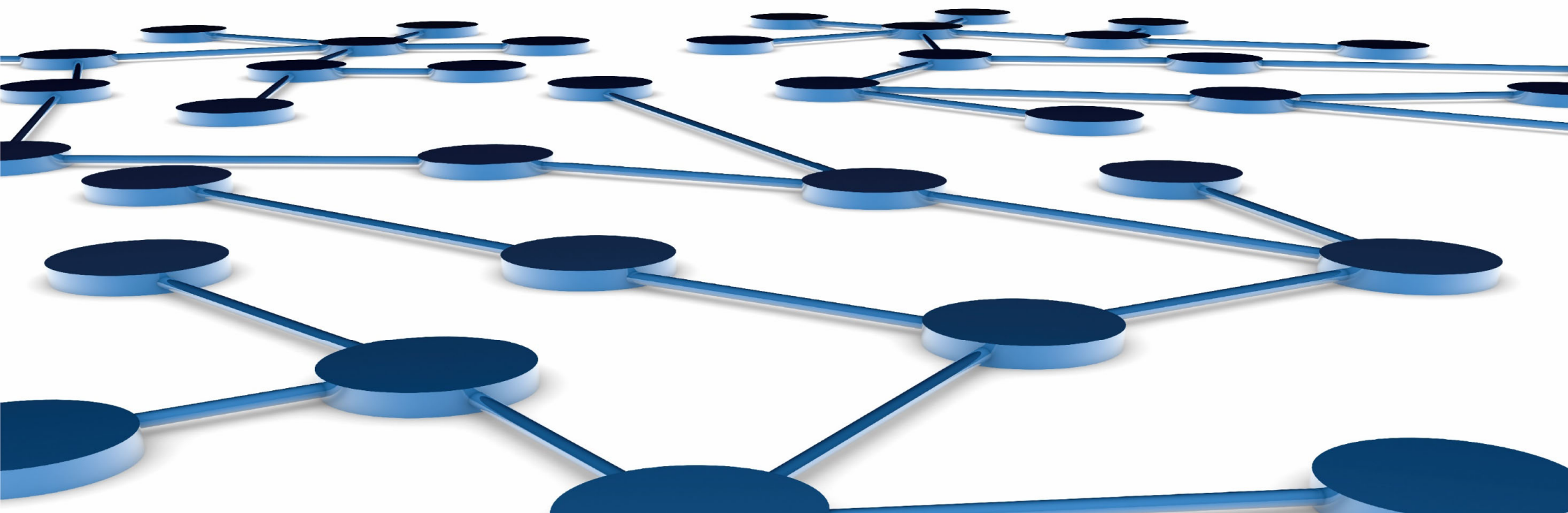




GENDAI AGENCY Inc.

ゲンダイエージェンシー株式会社

2022年3月期 第2四半期決算説明資料 2021年10月15日



P3 第2四半期 損益計算書(連結)

P4 事業の種類別セグメント

【広告事業】

P5 セグメント損益

P6 四半期総取扱高の推移

P7 品目別売上高の推移

【不動産事業】

P8 第2四半期 セグメント損益

P9 第2四半期 連結貸借対照表

P10 第2四半期 連結キャッシュ・フロー

P11 通期予想進捗状況

P12 自己株式の取得状況に関して

第2四半期 損益計算書(連結)

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間	構成比	前第2四半期累計期間	構成比	前年同期比
売上高	3,536	100.0%	3,131	100.0%	—
(参考) 総取扱高※	(3,907)	—	(3,131)	100.0%	124.8%
営業利益 (△は損失)	76	2.2%	▲344	—	—
経常利益 (△は損失)	85	2.4%	▲344	—	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (△は損失)	36	1.0%	▲362	—	—

※総取扱高は、代理人取引を取引総額で計上したものです。

◆ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、断続的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されたことにより、当社の主要顧客である、パチンコホールやフィットネス施設は、施設利用者の来店自粛や、集客を目的とした広告宣伝が自粛される傾向にあり、広告需要は低調に推移しました。

◆ 当社グループでは、主力の広告事業において、パチンコホール以外の顧客開拓、取引深耕を推進し、収益の底上げに向けた取り組みを進めてまいりました。

◆ これらの取り組みは一定の成果が得られ、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,536百万円、営業利益は76百万円(前年同期は344百万円の損失)、経常利益は85百万円(前年同期は344百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は36百万円(前年同期は362百万円の損失)となりました。

当社グループでは、当第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用しております。これに伴い、代理人取引と判断される一部の取引について、その売上高の計上額を、これまで取引総額であったものから、純額へと変更しております。その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高については、従来の計上方法(取引総額)と比較して、370百万円減少しております。よって、当第2四半期連結累計期間における経営成績に関する説明は、売上高については前第2四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年同期比(%)を記載せずに説明しております。

事業の種類別セグメント

■当第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
売上高	3,499	30	6	—	3,536
(参考) 総取扱高※	(3,870)	(30)	(6)	—	3,907
セグメント利益	200	15	0	▲140	76

■前年同期比

	広告事業	不動産事業	その他	調整額	連結
(参考) 総取扱高※	+768	+5	+2	—	+776
セグメント利益	+375	+10	+5	+29	+421

※総取扱高は、代理人取引を取引総額で計上したものです。

◆ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言等の発出により、積極的な広告出稿は控えられる傾向にあったものの、前年の緊急事態宣言時と比較し広告需要の減少は緩やかであったこともあり、総取扱高、セグメント利益とも前年比で大幅な増加となりました。

第2四半期 セグメント損益(広告事業)

(単位：百万円)

広告事業	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間	前年同期比
売上高	3,499	3,101	—
(参考) 総取扱高※	(3,870)	(3,101)	124.8%
セグメント利益 (△は損失)	200	▲174	—

※総取扱高は、代理人取引を取引総額で計上したものです。

外部環境>

- ◆ 断続的な緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されたことにより、施設利用者の来店自粛、積極的な広告出稿は控える傾向
- ◆ 前年同期にあった緊急事態宣言に基づく休業要請はなく、パチンコホール施設自体の営業は継続していたこともあり、一定の受注を確保
- ◆ コロナ禍以前の広告需要回復までには到底至らず、引き続き厳しい事業環境
- ◆ フィットネス施設広告分野においても、広告需要は低調に推移

当社の取り組み>

- ◆ 新規業種の顧客開拓を推進
- ◆ 連結子会社(株)ユーアンドユーにおいて、主力である通販広告以外の新分野における広告受注は、引き続き順調に増加
- ◆ 2021年3月に株式取得した(株)プレスエーの運営するフィットネス情報サイト「IDEAL」については堅調に推移

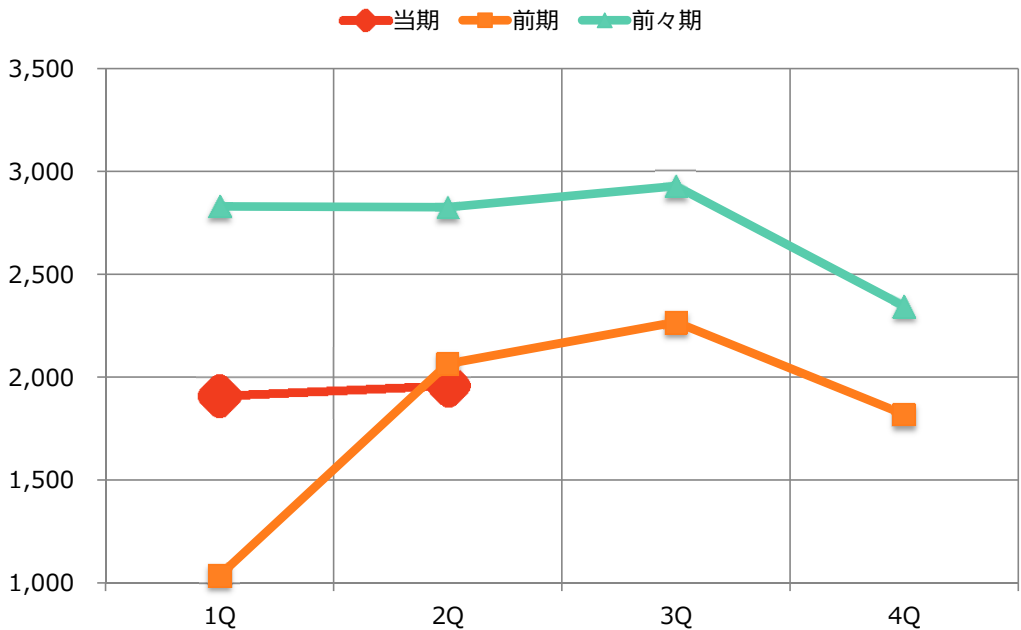
結果>

- ◆ 売上高は3,499百万円、セグメント利益は200百万円(前年同期は174百万円の損失)となりました。

【参考】四半期総取扱高の推移(広告事業)

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	1,910	1,960			
前期	1,036	2,065	2,267	1,819	7,187
前々期	2,830	2,826	2,929	2,345	10,930



◆ 当第2四半期累計期間における広告事業の総取扱高は、前年同期に比べ、768百万円増加

◆ 前年第2四半期会計期間は、緊急事態宣言等が解除され、広告需要は回復基調。一方、当第2四半期会計期間は緊急事態宣言等が継続したため、広告需要は低調に推移。

◆ コロナ禍以前の、正常需要下である前々年同期と比較すると、依然として厳しい事業環境

品目別売上高の推移(広告事業)

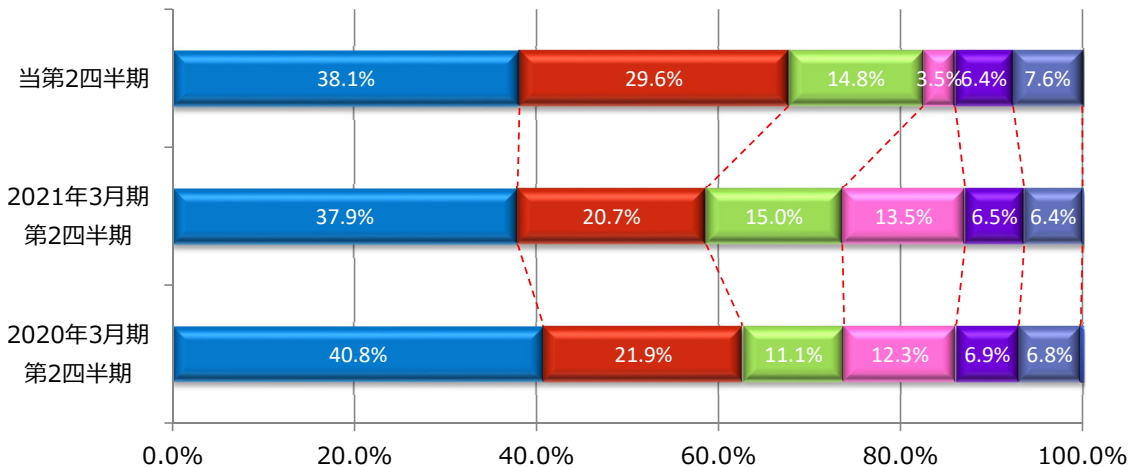
(単位：百万円)

	当第2四半期 売上高	売上高構成比	前年同期 売上高 (注)	構成比
折込広告	1,334	38.1%	1,174	37.9%
インターネット	1,035	29.6%	641	20.7%
販促物	518	14.8%	466	15.0%
媒体	122	3.5%	418	13.5%
クリエイティブ	223	6.4%	202	6.5%
その他	264	7.6%	197	6.4%
	3,499	100.0%	3,101	100.0%

売上高構成比

(注) 「収益認識に関する会計基準」適用前のため、総取扱高で計上

■折込広告 ■インターネット ■販促物 ■媒体 ■クリエイティブ ■その他



◆ 「収益認識に関する会計基準」等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用したため、媒体の売上高、および構成比は大幅に減少

第2四半期 セグメント損益(不動産事業)

(単位：百万円)

不動産事業	当第2四半期累計期間	前第2四半期累計期間	前年同期比
売上高	30	25	120.6%
営業費用	15	20	75.0%
セグメント利益	15	5	297.7%

◆ 所有する千葉県柏市の土地の賃貸収益のほか、賃貸仲介物件の引き渡し等に伴う手数料収益5百万円の計上がありました。

◆ 結果、売上高は30百万円(前年同期は25百万円)、セグメント利益は15百万円(前年同期は5百万円の利益)となりました。

第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当第2四半期末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	3,808	3,648	▲160
売上債権	973	875	▲97
未収還付法人税等	13	-	▲13
その他流動資産	349	347	▲2
有形固定資産	599	593	▲5
無形固定資産	111	106	▲4
投資その他資産	454	446	▲8
資産合計	6,310	6,018	▲292
買掛金	501	447	▲53
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	575	525	▲50
未払法人税等	39	56	16
その他流動負債	148	151	2
長期借入金	287	150	▲137
その他固定負債	35	36	0
負債合計	1,588	1,365	▲222
株主資本	4,722	4,649	▲73
その他	0	2	2
純資産合計	4,722	4,652	▲69
負債・純資産合計	6,310	6,018	▲292

◆ 借入の返済等により、負債は222百万円の減少。

◆ 純資産は四半期純利益36百万円を計上した一方で、株主還元として自己株式の取得108百万円を実施したこと等により69百万円の減少。

第2四半期 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期
税引前利益	▲344	80
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲273	146
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲37	▲12
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,347	▲295
現金及び現金同等物の期首残高	4,046	3,802
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,076	3,642

□ 現金及び現金同等物は、当第2四半期連結累計期間において160百万円減少し、3,642百万円となりました。

+ 税引前利益	80	
+ 減価償却費	22	
+ 売上債権の増加額	97	
+ その他	40	
		- 仕入債務の減少額 53
		- 法人税等の支払額 33
		- その他 9
営業活動によるキャッシュ・フロー	146	
		- 有形/無形固定資産の取得による支出 21
		- その他 6
+ その他収入	14	
		投資活動によるキャッシュ・フロー 12
		- 借入金返済による支出 187
		- 自己株式の取得による支出 108
		財務活動によるキャッシュ・フロー 295

通期予想進捗状況

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期実績	2022年3月期 通期予想	進捗率
売上高	3,536	8,100	43.7%
営業利益	76	300	25.4%
経常利益	85	300	28.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	36	225	16.1%

◆ 4月16日付「2021年3月期決算短信「日本基準」(連結)」において公表した2022年3月期の業績予想(以下、前回発表予想)は、1年間を通じて緊急事態宣言(及びこれに類する同レベルの強い営業制限や外出制限等)が発出されないものと仮定した上で試算したものであります。

◆ 当第2四半期連結累計期間においては、その大部分において緊急事態宣言下にあったことから、主力のパチンコホールの広告需要は低迷し、当社単体の業績は期初時点での試算を下回って進捗しております。その一方で、パチンコホール広告以外の事業を手掛ける連結子会社群の業績が連結業績を下支えしたこともあり、結果として当第2四半期連結累計期間の連結業績は、試算に対して若干の下振れにとどまっております。

なお当下期においては、緊急事態宣言等の解除によるパチンコホール広告需要の緩やかな回復が見込まれ、また、連結子会社群の各事業についても上期に引き続き堅調に推移するものと見込まれることから、現時点においては、前回発表予想を修正しておりません。

◆ なお、配当予想については、「2021年3月期決算短信「日本基準」(連結)」において、中間配当3円期末配当4円として公表しておりますが、今回、10月15日の取締役会において、中間配当3円の実施を決議いたしました。

◆ 2021年7月16日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による当社定款の定めに基づき、自己株式取得に係る事項について決議し、取得を実施しております。

1. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 1,500,000株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合9.97%)
- (3) 株式の取得価額の総額 450,000,000円(上限)
- (4) 取得期間 2021年7月19日から2022年3月24日まで
- (5) 取得方法 東京証券取引所における市場買付

2. 上記に基づきこれまで取得した自己株式の累計(2021年9月30日現在)

- ・買付株式数 321,000株(21.40%)
- ・買付総額 108,382,600円(24.09%)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 管理部 Tel.03-5358-3334